

すえ つぐ な み  
末次 奈美さん(43歳)

営農地:うきは市  
主な農産物:ナシ、ブドウ、  
カキ、イチゴ、ケーキ、  
焼き菓子等の加工品



## 好きだから、頑張れる

● 就農のきっかけ

### 結婚してすぐに家族会議

宗像の普通高校を卒業後、短大の幼児教育科に進学した末次さん。卒業後は、福津の幼稚園の教諭として5年勤務していました。その時、今の夫との出会いがありました。最初に、夫が農業をしていたうきは市に連れてきてもらった時、ちょうど筑後川の堤防の菜の花が満開の時期で、「こんな綺麗な自然の中で仕事ができるなら、農家の嫁も悪くないかな」と思い、平成7年に結婚を決意しました。その当時は、特に農業をすることにも不安はなかったそうです。

ところが、時代は農村に農産物だけでなく、癒しやゆとりと言ったグリーンツーリズムを求める状況に変化しつつありました。このため、末次さんは、家族会議を開き、このまま普通に観光農園だけをしても駄目だ。もっと、浮羽の自然をトータルで楽しんでもらえるような場の提供をしていきたいという結論に達したそうです。

そして、末次さんは、もともとお菓子作りが大好きだったこともあって、農園の果樹を使ったケーキや、敷地内に自噴した湧水を使ったコーヒーをお客さんに提供する部門を担当することになりました。

接客業の経験もなく、最初は不安でいっぱいだったそうですが、「絶対に支えてあげるから」という夫の言葉に助けられ、平成8年に「夢語寄家」というカフェをオープン。結婚から1年で開店という展開に当時は目の回る忙しさだったそうです。

● 私の今～就農後の道のり～

### 子育て・家事・仕事に追われる毎日…でも

オープン直前に長女を出産したため、「夢語寄家」オープン直後は子育て、家事、仕事に追われ「子供を背負ってケーキを焼いてましたよね」と当時を知る常連さんから言われることもあります。

ところが、どんなに頑張っても、最初の5年間は、なかなかお客さんに来てもらえず「こんな山の中のカフェに客なんてくるか」と言う人もいました。

特に、果樹のない冬場は来客数ゼロの日もあったようですが、自分の好きなことを仕事にしているから頑張れたと当時の心境を語ってくれました。

そんな時、お客さんから「冬場にイチゴの摘み取り園をやってくれたらいいのに」と提案を受けた末次さん。さっそく、夫に相談すると「それだと年中、お客さんに来てもらえる。農園とカフェの相乗効果も見込めるね」と言ってくれ、野菜の栽培経験がないにもかかわらず、すぐにイチゴ栽培の準備を始めてくれたことがとても嬉しかったそうです。

その後、イチゴの摘み取り園も開園したことで徐々にお客さんも増え始め、今では観光果樹園、カフェともに行列のできる人気スポットになっています。

● これからの夢、目標

### うきは市の魅力を発信していきたい

最近、カフェやお菓子だけでなく地域の野菜を使ったランチプレートを提供するようにしているそうで、自家の果物だけでなく、地域の農産物をもっともっと使っていききたいそうです。

「そうすることで、うきは市の農業や自然の魅力を伝えることができたらと考えています。今は直販だけの焼き菓子やジャムも果物の地方発送にギフトセットとして加えていけたら魅力も増すんじゃないかな。いずれにせよ、イチゴの摘み取り園の時のようにお客さんのニーズを大切に商品開発していくのが理想です」と末次さんはこれからの夢を語ってくれました。



プロフィール

- 家族構成 / 本人、母、夫、子2人
- 営農年数 / 約17年
- 耕作(経営)面積 / 2.5ha
- 販路 / 直売

### 就農を考えている女性へ

私の場合、農家に嫁いで、すぐに今でいう6次産業化みたいな仕事を始めましたが、それは、自分が好きな仕事だったということもありますが、家族の理解と自分の相談に真剣に乗ってくれる夫がいてくれたからこそ実現できたことだと考えています。女性が農業分野で夢を実現させていくには、これが一番大切なことだと思います。

筑後北部エリア